

道路設計モデルの実務適用検討小委員会
活動報告書

平成 29 年 6 月

道路設計モデルの実務適用検討小委員会

小委員会構成（2015年7月～2017年6月）

小委員長：

古屋 弘 株式会社大林組

委員（五十音順）：

青山 憲明 国土交通省 国土技術政策総合研究所

足達 嘉信 セコム(株)

有賀 貴志 (株)コンポート

江端 陽二 GSA(株)

小松 淳 日本工営(株)

竹内 幹男 福井コンピュータ(株)

千葉 洋一郎 (株)トリオン

坪村 健二 中央復建コンサルタンツ(株)

西山 昭一 応用地質(株)

蒔苗 耕司 宮城大学

村井 重雄 西松建設(株)

山本 賢司 日本電気(株)

吉野 博之 八千代エンジニアリング(株)

西木 也寸志 一般社団法人オープン CAD フォーマット評議会

事務局： 内山 亜弥乃 一般社団法人 buildingSMART Japan

目次

| | |
|------------------|---|
| 1. 小委員会の活動 | 1 |
|------------------|---|

1. 小委員会の活動

| | |
|-------------------|----------------------------|
| 第1回小委員会 | 2015年8月4日(火) 15:00~17:00 |
| 第2回小委員会 | 2015年9月29日(火) 15:15~17:30 |
| 第3回小委員会 | 2015年11月16日(月) 15:00~17:00 |
| 第4回小委員会 | 2016年2月3日(水) 15:00~17:00 |
| IFC-Road ミーティング | 2016年2月22日、23日 |
| IFC-Road ミーティング報告 | 2016年3月17日(木) 15:00~17:00 |
| 第5回小委員会 | 2016年11月9日(水) 15:00~17:00 |
| 第6回小委員会 | 2017年6月8日(木) 15:00~17:00 |

第1回 社会基盤標準化委員会
道路設計モデルの実務適用検討小委員会 議事録

日時：2015年8月4日(火) 15:00 – 17:30

会場：GSA(株) 会議室

出席者：古屋(大林組)、青山(国交省)、足達(セコム)、有賀(コンポート)、江端(GSA)、
小松(日本工営)、竹内(福井コンピュータ)、千葉(トリオン)、坪村(中央復建)、
西山(応用地質)、吉野(八千代)、村井(西松建設) <敬称略>

議題：

1. 委員会活動計画および委員構成の紹介
2. 前年度活動内容 : 報告書参照
3. OpenINFRA 情報
 - ・OGC資料に関して：IFCとOGCの比較が必要
 - ・記述が可能かどうか：地物と構造物の境界が存在
4. 本委員会の活動計画の検討 【討議】
 - ① 委員会における検討の方向性 : 道路
 - ② 実装実験に向けて : どの分野, どのフェイズをターゲットとするか
 - ・工種を限定する方が良いのではないか
 - ・プロジェクト全体を考慮してシミュレーションでも良いのでは(実証実験)
→ 適用できそうな部分を探す

課題：過去の事例は図面, 設計図書(竣工図書)しかない場合が多い; 道路台帳しかない場合もある(?)

 - ・使用者からの要求は, メッシュ, ソリッド(ボクセル)など様々 : (原因) 体積を求める, マシンガイダンス, 属性を入れたい, などの要求でモデルが変わる
 - ・国総研の考え方 : 入力データ(ベース)からそれぞれのモデル(メッシュ, ソリッドなど)が作成できれば良い
 - ・国内のソフトウェアでも中心線形と横断モデルがあれば「面」が作成可能
 - ・何処までモデルを作るか(昨年度は単純な線形): 交差点など
 - ・工種の問題: 配置とつながりを考慮したモデル
 - ・ノード(実物形状の何処までが node か) とエッジ(繋ぐ無次元の線) を考えるのか
 - ・実施設計と施工がターゲットか?
 - ・施工で試験などを行っているが, これを扱えるものを実験対象とする
 - ・点群データを用いた監督検査(Droneなどでの計測データ): 3次元モデルと

の比較

- ・維持管理での3次元GISでの展開
- ・例えば道路の新設で、本モデルを用いて出来る範囲の提案というかたちもあり
- ・形状だけのデータ交換という割り切った考え方もあり：ジオメトリ等の設計思想はweb3Dなどで記述（ユーザの必要な形でのデータ交換の方が良いのでは）→維持管理では有効，設計では？
- ・現在IFC→webで閲覧可能な3D形状のフォーマットに変換するツール有り
- ・実験のストーリー
 - 目的1：工種（構造物）の配置を考慮
 - 目的2：道路の構成要素（パーツ）の追加。この際LODも考慮する必要あり：部分的には2次元の図面でも良いのでは？
 - 目的3：2プロセス間でのデータ交換
- ・一気通貫のフォーマットが現状無い。昨年モデルを拡張して標準フォーマットとして一気通貫のデータとして使えることを証明する → 「道路設計モデル」が国総研モデル、LandXMLへの変換が容易であることで実証に関する証明可能

③ 概略工程の検討

④ 課題

⑤ 分担

- ・国総研モデルの進化版（現状作業中）は青山さんにお問い合わせ
- ・国総研モデル、フィンランドモデルの比較表（定義の違い）は必要：OCF 西木さん
- ・LandXML MVD（フィンランドモデル）で検索

5. その他

第2回 社会基盤標準化委員会
道路設計モデルの実務適用検討小委員会 議事録

1. 日 時 : 2015年9月29日(火) 15:15~17:30
2. 場 所 : GSA
3. 議事内容
 - ① InfraRoom 情報紹介
 - i. 9.28 IFC Road / Railways Stakeholder Meeting 会議の内容 : 江端さん
意見交換は【議題3】で実施
 - ii. LandXML MVD の概要と全体像 : 西木さん
LandXML およびフィンランドの取り組みに関して情報提供
 - ② 実装に向けての取り組み: 国総研からの情報提供 : 青山さん
3次元設計データ交換標準(改訂版)の説明
 - ③ 討議
 - i. LandXML の取り組みと国総研モデルに関して
 - ・国総研モデルと LandXML の相違点で, Surface の存在と幅員中心
 - ・LandXML の Line String の意味 : メインテナンス等を考えると意外と重要
 - ・平面図, 断面図の必要性
 - ・線形モデルはネットワークを考えた場合つながりも必要か?
 - ・国総研モデルの図-2.1 は夢 : 維持管理に使えるデータを作成するには今のモデルでは不十分
 - ・本委員会での道路モデルのターゲット(Scope)を定めることが重要
施工までをターゲットとしたい【今後要検討】
施工と言っても何処までを対象とするのか 例えば機械施工, 資材 etc
 - ・LandXML の紹介の中でのソフトウェアの機能も調べる必要あり
 - ii. IFC Road / Railways Stakeholder Meeting における以下の分析
 - a) Exchange Requirements
 - b) KCIT の提案 (Road design to QTO)
 - ・現状では特に問題は無し
 - ・概略設計における積算(数量拾いのような感じ)をターゲットか?
 - iii. 作業分担ほか
 - ・検証モデルの調達が必要 > 国総研に探していただく
 - ④ その他
次回以降も西木さんに情報提供いただく
シンガポール会議にて動向調査: 要報告
次回 11月16日(月) 15:00-17:00 GSA

2015.11.16

第3回 社会基盤標準化委員会
道路設計モデルの実務適用検討小委員会 議事録

1. Singapre Summitt 情報紹介

表記会議の内容に関して概要の紹介

- ✓ IFC-ROSD, IFC-RAILWAYS に関しては議題2で詳細を紹介
- ✓ IFC-Alignment が Ver.1.1 に開発着手。これに伴って、日本を含む7カ国がこれに参加表明
- ✓ 本小委員会はこれに対応予定

2. 韓国／中国の動向

IFC-Road に関して：KICT が中心に開発続行。QTO に対応予定。今後アセットマネジメントも考慮

IFC-Railways：中国が中心となり開発着手。構造物のみならず設備やその他システムも包含したプロジェクトとなる予定

これらに対して、今後、韓国、中国と情報交換を随時実施予定

3. 討議

- ① 委員会の対応 : 道路モデルの拡張を予定
対象となる道路設計を探す

4. その他

次回開催 1月19日(予定)

2016.02.03

第4回 社会基盤標準化委員会
道路設計モデルの実務適用検討小委員会 議事録

出席者：青山（国土技術政策総合研究所）、足達（セコム）、有賀（コンポート）、江端（GSA）、小松（日本工営）、竹内（福井コンピュータ）、坪村（中央復建）、西木（OCF）、西山（応用地質）、村井（西松建設）、雨宮（建設技術研究所）、児玉（JACIC）

1. シンガポールサミットの概要
 - ✓ JACIC の宮本氏・横山氏による報告書を共有
 - ✓ InfraRoom の Resolution の翻訳版を共有
2. 線形構造物に関する話題提供
 - ✓ LandXML MVD における線形構造物（道路・鉄道・河川）について
3. IFC-ROAD/RAILWAYS の動向
 - ✓ 韓国と中国で BIM アライアンスを締結する動きがあるよう
 - ✓ 日中韓の合同 WG を 1 月に開催する予定であったが 2 月に延期された。日本からは古屋さん（大林組）、千葉さん（トリオン）ほか 1 名が出席予定。
4. 小委員会の対応
 - ✓ 2 月に予定されている日中韓の合同 WG の進展を踏まえて、検討する
5. 道路設計モデルの実装実験
 - ✓ 現在、高知県に道路設計データの提供を交渉中
6. その他
 - ✓ 国総研では、今年 1 月に LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準（案）ver.0.9 を公開（OFC 実証実験用）し、3 月に ver1.0 に改定して公開予定。また、英語版を現在作成中。
 - ✓ 韓国が作成した IFC-ROAD のドキュメントは改定されていない。

次回開催 後日調整

以上

International Collaboration Meeting for IfcRoad Standard in KICT

報告

平成 28 年 2 月 22 日

■ 概要

- ① Ifc-Road および Ifc-Railway に関する日本、韓国、中国、ドイツ、アメリカからの参加者による Collaboration Meeting として、2016 年 2 月 18 日～19 日に KICT（韓国・ソウル）、2 月 22 日～23 日に CRBIM Alliance（中国・北京）で実施。
- ② 韓国でのミーティングは、Open Meeting として開催され日本チームが出席した。
- ③ 中国でのミーティングは、Closed Meeting として開催され日本チームは出席できない。ただし、University of Seoul の Dr.Kim は中国でのミーティングの開催後、情報提供をするとしている。

■ 参加者

| 氏名 | 所属 | 2 月 18 日 | 2 月 19 日 |
|-----------------|--------------------------|----------|----------|
| Hyunjoo Kim | University of Seoul | ○ | ○ |
| Kibeom Ju | KICT | ○ | ○ |
| Hyouonseok Moon | KICT | ○ | ○ |
| Wonsik Choi | KICT | ○ | ○ |
| Changyoon Kim | KICT | ○ | ○ |
| Geunha Cho | KICT | ○ | ○ |
| Minsoo Lim | AutoDesk Korea | — | ○ |
| Tim Chipman | Constructivity | ○ | ○ |
| Thomas Liebich | AEC3 | ○ | ○ |
| Hiroshi Furuya | Obahashi | ○ | ○ |
| Takashi Aruga | Conport | ○ | ○ |
| Bong-Geun Kim | TAESUNG S&I | — | ○ |
| Han Jung Hoon | DuCOMS Engineering Korea | — | ○ |

■ 場所

KICT: Korea Institute of Civil Engineering and Building Technology

■ 期間

2016 年 2 月 17 日～18 日

■ 第一日目（2 月 18 日）

- ① Kibeom Ju 氏より KICT の概要の説明
- ② Hyounseok Moon 氏より IfcRoad の概要と現況の説明
- ③ IfcRoad に関するディスカッション
 - 1) IfcRoad は、Detailed Design フェーズから Construction フェーズにおいて、3D モデルを政府に提出するための Civil Element、Component および基本的なアトリビュートについてのオブジェクトの形状表現を行うものである。
 - 2) 地形モデルに関して、将来的に OGC との連携を検討する。
 - 3) IfcRoad のスコープに、機械化施工は含まない。
 - 4) IfcRoad のメインスコープはどこにあるのか明確にしなければならない。
 - 5) 現在 IfcRoad で定義している橋梁に関するエンティティで、98%の構造形式がカバーできる。
 - 6) トンネルのエンティティは、さらにディスカッションが必要である。
- ④ Thomas Leabich により IfcRoad/Railway のクラス図の説明
 - 1) IfcRoad で作成したエンティティと IfcRailway で作成したエンティティをひとつのダイアグラムで表現して、エンティティの重複やエンティティの目的の確認を行った。
 - 2) IfcRoad の Spatial Element について、Building の空間要素の構成と対比により、考え方を整理した。IfcRoad で作成した Spatial Element のひとつである IfcRoad_K は、IfcBuilding がネスト可能であることと同様に、道路全体と、道路の一部をそれぞれ表現することが可能であることを確認した。
 - 3) IfcBridge_K と IfcTunnel_K は、道路全体を現す IfcRoad_K の当該構造物が配置される一部の区間を表すものであることを確認した。土工区間は IfcRoad_K を用いることができる。
 - 4) Physical Element のうち、IfcRailway に関するエンティティについては、KICT でのミーティングに中国チームが不参加のため、中国のミーティングで確認することとなった。
 - 5) トンネルに関連するエンティティは 2 つのみである。トンネルの構造に関する用語の整理が必要である。たとえば「Lining」が指す部材について Thomas Leabich と日韓チームでイメージの違いがあった。
 - 6) 日本で開発している IFC-Tunnel とも連携が必要であるとの認識で一致した。

■ 第二日目 (2月19日)

- ① Hyounseok Moon 氏より IfcRoad のコンバーターとビューワーの概要の説明
 - 1) コンバーターは AutoDesk Revit および Civil 3D のアオドンとして開発したものである。
 - 2) コンバーターで出力できる IFC ファイルは IFC4 と infraIFC (IfcRoad) の 2 通りが選択できる。
 - 3) コンバーターで出力した IFC ファイルは Solibri で読み込みとモデルの表示を確認した。
- ② Bong-Geun Kim 氏 (TAESUNG S&I) によるコンバータのデモンストレーション
- ③ Han Jung Hoon 氏 (DuCOMS Engineering Korea) によるビューワーのデモンストレーション
- ④ Tim Chipman 氏 (Constructivity) による、アメリカの橋梁モデル開発の取り組みに関する説明
 - 1) FHWA (Federal Highway Administration) と NIBS (National Institute of Building Science) による橋梁モデル開発の概要。
 - 2) IFC4x2 として橋梁モデルの MVD を開発している。
 - 3) VanWhite 橋の実橋に関する IFC ファイルの説明
 - 4) これらのファイルはすべて下記の URL で公開している。
www.timchipman.com/bridge
- ⑤ Tomas Leabich 氏 (AEC3) による、ミュンヘン工科大学が開発したビューワーの説明。
 - 1) Ifc-Alignment1.0 のプロジェクトの段階で、各国に共有してきたビューワーの最新版のデモンストレーションを行った。
 - 2) ビューワーを共有するための情報を、今後配信すること。

■ まとめ

- ① University of Seoul の Dr.Kim および Dr.Moon をはじめとする KICT のメンバーと Ifc-Road に関する深い意見交換を行ったことは、大変重要な機会であった。
- ② Ifc-Road は、道路構造物のオブジェクトの形状、属性を表現するという観点で実用的なレベルにある。
- ③ Ifc-Road と Ifc-Alignment の連携は、Ifc-Alignment1.1 の展開とあわせて検討される。
- ④ Ifc-Road の空間要素の構成は、建築分野と考え方おおむね同様であり、現バージョンでも十分に利用可能と思われる。
- ⑤ IfcRoad の物理要素に関連するエンティティは現バージョンでも非常に多いため、さらに整理が必要であることは Thomas Liebich も同意見である。
- ⑥ 本ミーティングでも、最新スキーマ、ターミノロジー、デモンストレーションで用いたモデルの Ifc ファイル等のドキュメント、およびコンバーターとビューワーの提供を再三求めたが、しかし、依然としてこれらは入手できてない。Dr.Kim はドキュメントの一部に韓国語があるため数週間以内に提供すると言っている。
- ⑦ 橋梁モデルについて、今後、米韓でコラボレーションが行われる方向であると思われる。
- ⑧ 米韓それぞれにフランスの IFC-Bridge との関係を探ねた。韓国は、フランスと数回意見交換を行ったが、フランスの取り組みは橋梁の上位概念を扱っており、韓国の物体を記述する目的とは異なると見解で、フランスとのコラボレーションは行っていないという。アメリカも同様に、現状ではフランスとのコラボレーションは行っていない。



図 1 KICT の位置



図 2 KICT 全景



図 3 2月17日の出席者



図 4 会議室全景

International Collaboration Meeting for IfcRoad Standard in KICT

古屋、有賀

平成2016年 3月17日
大林組本社 14F B-1会議室

2016.03.17

www.conport.jp

1

概要

2

日付：2016年2月18日、19日

場所：KICT (Korean Institute of Civil engineering and building Technology)

→ 1st Day (Feb. 18) – KICT

| Time | Agenda | Topics |
|-------------|-------------------|--|
| 09:00~11:30 | IfcRoads Issues | Brief presentation of IfcRoad development history |
| | | In-depth discussions on the issues of IfcRoad (1) |
| 11:30~13:00 | | Lunch Time (near KICT) |
| 13:00~18:00 | IfcRoads/Railways | In-depth discussions on the issues of IfcRoad (2) |
| | | Discussions on the how to integrate IfcRoad with Railway |
| | | Discussions of promotion strategies into "Overall Architecture" of IfcRoad and Railway |

→ 2nd Day (Feb. 19) – KICT

| Time | Agenda | Topics |
|-------------|-------------------------|--|
| 09:00~11:30 | IfcRoad Software | Brief presentation of IfcRoad Converter and Viewer |
| | | In-depth discussions on the technical issues of IfcRoad Converter and Viewer |
| 11:30~13:00 | | Lunch Time (near KICT) |
| 13:00~18:00 | Case Study with IfcRoad | Brief presentation of pilot project with use case |
| | | Discussions on the MVD development for IfcRoad |
| | Tour | Overall Q&A with CRBIM for Collaboration and Wrap up Peace Nuri Park in Paju and DMZ (Korean Demilitarized Zone) Tour (Depending on the Schedule) |



2016.03.17

www.conport.jp

道路モデル等に関する意見交換

- ① Ifc-RoadおよびIfc-Railwayに関する日本、韓国、中国、ドイツ、アメリカからの参加者によるCollaboration Meetingとして、2016年2月18日～19日にKICT（韓国・ソウル）、2月22日～23日にCRBIM Alliance（中国・北京）で実施。
- ② 韓国でのミーティングは、Open Meetingとして開催され日本チームが出席した。
- ③ 中国でのミーティングは、Closed Meetingとして開催され日本チームは出席できない。ただし、University of SeoulのDr.Kimは中国でのミーティングの開催後、情報提供をすとしてしている。



2016.03.17



www.conport.jp

道路モデル等に関する意見交換

第1日（2月18日）

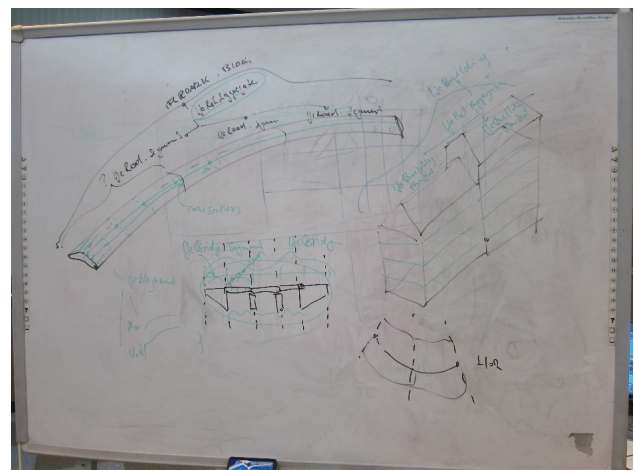
- ① Kibeom Ju氏よりKICTの概要の説明
- ② Hyoungseok Moon氏よりIfcRoadの概要と現況の説明
- ③ IfcRoadに関するディスカッション
- ④ Thomas LeabichによりIfcRoad/Railwayのクラス図の説明



2016.03.17

www.conport.jp

道路モデル等に関する意見交換



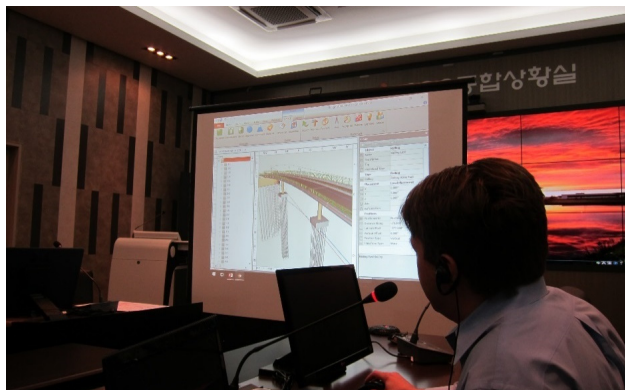
③ IfcRoadに関するディスカッション

- IfcRoadは、Detailed DesignフェーズからConstructionフェーズにおいて、3Dモデルを政府に提出するためのCivil Element、Componentおよび基本的なアトリビュートについてのオブジェクトの形状表現を行うものである。
- 地形モデルに関して、将来的にOGCとの連携を検討する。
- IfcRoadのスコープに、機械化施工は含まない。
- IfcRoadのメインスコープはどこにあるのか明確にしなければならない。
- 現在IfcRoadで定義している橋梁に関するエンティティで、98%の構造形式がカバーできる。
- トンネルのエンティティは、さらにディスカッションが必要である。

④ Thomas LeabichによりIfcRoad/Railwayのクラス図の説明

- IfcRoadで作成したエンティティとIfcRailwayで作成したエンティティをひとつのダイアグラムで表現して、エンティティの重複やエンティティの目的の確認を行った。
- IfcRoadのSpatial Elementについて、Buildingの空間要素の構成と対比により、考え方を整理した。IfcRoadで作成したSpatial ElementのひとつであるIfcRoad_Kは、IfcBuildingがネスト可能であることと同様に、道路全体と、道路の一部をそれぞれ表現することが可能であることを確認した。
- IfcBridge_KとIfcTunnel_Kは、道路全体を現すIfcRoad_Kの当該構造物が配置される一部の区間を表すものであることを確認した。土工区間はIfcRoad_Kを用いることができる。
- Physical Elementのうち、IfcRailwayに関するエンティティについては、KICTでのミーティングに中国チームが不参加のため、中国のミーティングで確認することとなった。
- トンネルに関連するエンティティは2つのみである。トンネルの構造に関する用語の整理が必要である。たとえば「Lining」が指す部材についてThomas Leabichと日韓チームでイメージの違いがあった。
- 日本で開発しているIFC-Tunnelとも連携が必要であるとの認識で一致した。

- ① Hyounseok Moon氏よりIfcRoadのコンバーターとビューワーの概要の説明
- ② Bong-Geun Kim氏 (TAESUNG S&I) によるコンバーターのデモンストレーション
- ③ Han Jung Hoon氏 (DuCOMS Engineering Korea) によるビューワーのデモンストレーション
- ④ Tim Chipman氏 (Constructivity) による、アメリカの橋梁モデル開発の取り組みに関する説明
- ⑤ Tomas Leabich氏 (AEC3) による、ミュンヘン工科大学が開発したビューワーの説明



2016.03.17

www.conport.jp

道路モデル等に関する意見交換

- ① Hyounseok Moon氏よりIfcRoadのコンバーターとビューワーの概要の説明
 - コンバーターはAutoDesk RevitおよびCivil 3Dのアオドンとして開発したものがあある。
 - コンバーターで出力できるIFCファイルはIFC4とinfraIFC (IfcRoad) の2通りが選択できる。
 - コンバーターで出力したIFCファイルはSolibriで読み込みとモデルの表示を確認した。

2016.03.17

www.conport.jp

道路モデル等に関する意見交換

④ Tim Chipman氏（Constructivity）による、アメリカの橋梁モデル開発の取り組みに関する説明

- FHWA（Federal Highway Administration）とNIBS（National Institute of Building Science）による橋梁モデル開発の概要。
- IFC4x2として橋梁モデルのMVDを開発している。
- VanWhite橋の実橋に関するIFCファイルの説明
- これらのファイルはすべて下記のURLで公開している。

www.timchipman.com/bridge

⑤ Tomas Leabich氏（AEC3）による、ミュンヘン工科大学が開発したビューワーの説明。

- Ifc-Alignment1.0のプロジェクトの段階で、各国に共有してきたビューワーの最新版のデモンストレーションを行った。
- ビューワーを共有するための情報を、今後配信するとのこと。

- ① University of SeoulのDr.KimおよびDr.MoonをはじめとするKICTのメンバーとIfc-Roadに関する深い意見交換を行ったことは、大変重要な機会であった。
- ② Ifc-Roadは、道路構造物のオブジェクトの形状、属性を表現するという観点で実用的なレベルにある。
- ③ Ifc-RoadとIfc-Alignmentの連携は、Ifc-Alignment1.1の展開とあわせて検討される。
- ④ Ifc-Roadの空間要素の構成は、建築分野と考え方おおむね同様であり、現バージョンでも十分に利用可能と思われる。

- ⑤ IfcRoadの物理要素に関連するエンティティは現バージョンでも非常に多いため、さらに整理が必要であることはThomas Liebichも同意見である。
- ⑥ 本ミーティングでも、最新スキーマ、ターミノロジー、デモンストレーションで用いたモデルのIfcファイル等のドキュメント、およびコンバーターとビューワーの提供を再三求めたが、しかし、依然としてこれらは入手できてない。Dr.Kimはドキュメントの一部に韓国語があるため数週間以内に提供すると言っている。
- ⑦ 橋梁モデルについて、今後、米韓でコラボレーションが行われる方向であると思われる。
- ⑧ 米韓それぞれにフランスのIFC-Bridgeとの関係を尋ねた。韓国は、フランスと数回意見交換を行ったが、フランスの取り組みは橋梁の上位概念を扱っており、韓国の物体を記述する目的とは異なると見解で、フランスとのコラボレーションは行っていないという。アメリカも同様に、現状ではフランスとのコラボレーションは行っていない。

ご清聴ありがとうございました

平成2016年 3月17日
大林組本社 14F B-1会議室

2016.11.09

第5回 社会基盤標準化委員会
道路設計モデルの実務適用検討小委員会 議事録

出席者：青山（国土技術政策総合研究所）、足達（セコム）、有賀（コンポート）、竹内（福井コンピュータ）、坪村（中央復建）、西木（OCF）、西山（応用地質）、村井（西松建設）、雨宮（建設技術研究所）、児玉（JACIC）

1. bSI の動向
 - ✓ IFC-Road/Railways の韓国と中国の動向報告
 - ✓ 日中韓の合同 WG の延期
 - ✓ 土木系の構造物毎の活動も活発化
 - ✓ 線形は 2017 年に Ver.1.1 が確定
2. IFC-Road に関して
 - ✓ 高知県の道路を用いて実際に開発された IFC-Road を適用してみる
 - ✓ モデルの概要を有賀氏から委員に説明
 - ✓ 今年度中に適用を行い、その成果を委員会で報告する
3. その他
 - ✓ 国総研からの取り組み説明：国総研では、来年 3 月に ver1.0 に改定して公開予定。また、英語版を現在作成中。
 - ✓ 国総研の道路モデルの改訂進捗状況。

次回開催 後日調整

以上

2017.06.08

第6回 社会基盤標準化委員会
道路設計モデルの実務適用検討小委員会 議事録

出席者：青山（国土技術政策総合研究所）、有賀（コンポート）、小松（日本工営）、竹内（福井コンピュータ）、坪村（中央復建）、西木（OCF）、西山（応用地質）、村井（西松建設）、雨宮（建設技術研究所）

1. IFC-Road 適用実験の結果

- ✓ IFC-Road のスキーマ等の説明（有賀氏）
- ✓ モデルの不整合の報告
 - ドキュメントと IFC モデルの不整合の存在
 - これらの解釈
 - モデル自体の完成されていない部分の確認
- ✓ 高知県の道路への適用結果：一部形状は記述可能，ただし問題が多い
- ✓ IFC-Road は実際は未完成な部分が多く，bSI で報告されている部分には疑問と主あれる部分がある
- ✓ 今後は直接韓国とのコンタクトを取り，不整合や疑問点を引き続き改名していく必要がある

2. その他

- ✓ 本委員会は今回で終了。報告書は各委員にメールで受け渡し。
- ✓ 課題が明らかになったので，何らかの場所で検討をつつける必要あり

以上